昭和大学歯学部だより 2010. 1号

通算74号

2010. 1. 31発行

発行責任者:歯学部長　宮崎　隆，編集責任者:広報委員長　井上　富雄
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ:　http://www.showa-u.ac.jp

新年にあたり － 学内 OSCE の実践 －

口腔解剖学教室　中村　雅典

新年，明けましておめでとうございます．

2010年が幕開けしました．世の中の動きは凄まじく，国際的には経済不況，種族・宗教間の紛争が続き，国内でも長引く不況の中で政権が交代し，政治，経済，教育，医療等様々な領域での改革が始められています．昨年の世情を表す漢字は“新”でした．これまでを見直し，これからの新しい時代を創世する決断をする時期が到来したものと思われます．

歯学教育もご存知のように、これまでの知識偏重型から臨床直結型の教育が強く求められるようになり、それに伴う様々なカリキュラムの変更が各歯学部、歯科大学で行われてきました．昭和大学歯学部は教育理念である「チーム医療の一員として超高齢社会の健康に貢献できる自己探求能力を有する歯科医師の育成」のため，教育カリキュラムをこれまでと大きく変更し，その中で他大学に先駆けて系統教育だけでなく歯科臨床を視野に入れた基礎からの統合教育に取り組んできました．その改革の一貫として，2003年から問題基盤型学習(Problem Based Learning: PBL)や1年次からの早期臨床体験実習等をカリキュラムに取り入れてきました．現在，臨床体験実習とPBLは歯学部教育にとどまらず，国際的にも類のない医・歯・薬・保健医療の4学部横断教育の重要な方略として位置づけられ，その実績が評価された結果，本学の“チーム医療を実現する体系的学士課程の構築”が本年度の文部科学省の大学教育推進プログラムに選定されました．

一昨年，昨年の2年にわたり，夏の「昭和大学歯学教育者のためのワークショップ」で歯学部教授総会メンバーと臨床実習責任者が主体となって昭和大学歯学部学生が卒業時にどのような学生となって欲しいのか，すなわち「昭和大学歯学部における卒業時の要件（コンピテンシー）」を制定しました．コンピテンシーとは，職務の内容や仕事の役割に対して期待される成果を導く上での行動特性を示します．本学歯学部でも，教科毎ではなく昭和大学歯学部教育として達成し，学生に質の保証をしようとするものです．また，その達成度を総合的に評価するために，臨床実習終了時に本学独自のOSCE（客観的臨床能力試験；OSCAともいう）を実施することを決定いたしました．この決定のもと，山本松男教授（実施委員長）を中心に姉妹校である香港大学歯学部で実施されているOSCEの視察を行ってきました．香港はご存知のように、日本での歯科医師国家試験に相当する国家試験はなく，大学卒業がそのまま歯科医師免許取得となります．したがって，学内で実施されるOSCEが極めて重要な卒業判定と位置づけられています．

視察中，実施責任者であるProf. Michael BotelhoやProf. McGrath Colmanから実施内容のコンピテンシーとの整合性や学生評価だけでなく，OSCE自体の評価の重要性とその評価法について貴重な意見をいただくことができました．昼食には歯学部長のProf. Lakshman P. Samaranayake や歯学教育専門家であるDr. Susan Bridgesにも来ていただき，視察メンバーと広く意見交換をすることが出来ました．

本年度初の試みである臨床実習終了時OSCEは3月1～5日にわたって行われます．このOSCEには，香港大学からProf. Lakshman P.　SamaranayakeとProf. Michael Botelho，並びに香港大学同様に姉妹校であるアデレード大学からProf. Grant Townsendを招聘してこの3人による外部評価を行っていただきます．その意見を参考に次年度以降に向け，改善を行うこととなります．また，文部科学省からの視察も予定されており，本学で行われている教育が非常に注目されているものであると理解されます．

これまで歯学部は種々の新しい取組みを先進的に教育カリキュラムに取り入れ，積極的に実践してきました．今年度は，これまでの取組みをもとに一層の充実を目指すスタートの年になるものと思われます．教職員，ご父兄の一層のご協力とご支援を賜ることをお願い申し上げます．

（香港大学歯学部 THE PRINCE　PHILIP DENTAL HOSPITAL 正面玄関にて）

香港大学でOSCA実施見学をして

歯科補綴学教室　金石　あずさ

平成22年1月7日に香港大学歯学部において実施されたOSCAの視察に，1月6～9日で中村雅典教授および山本松男教授を代表に，長谷川准教授，須田講師，五島講師，島田講師，宮澤講師，伊佐津講師，野中助教，丹澤先生および金石の11名が参加いたしました．

昨年度は実施内容を中心として視察を行いましたが，本年度はOSCA運営を主とした視察をして参りました．

香港大学のコンピテンシーは大きく7項目からなり，項目毎に3ブロック，計21ステーションを学生が一課題10分でローテーションをするショットガン方式で行われていました．評価者による評価は数課題のみで，他のステーションでは臨床技能，コミュニケーション技能，診断や治療計画および対処法などについて学生が記述するという形式がとられていました．評価者は歯科医師が数名で，各ステーションの補助や誘導，タイムキーパーなどは病院の歯科衛生士が行っていました．学生教育に教員のみならず，病院職員も共に参加するという体制には学ぶところが大いにありました．

視察後，視察内容の確認と学内臨床実習終了時OSCEの準備についての会議を行い，香港大学のOSCAの要素を取り入れた昭和大学オリジナルの臨床実習終了時OSCE実施内容についての確認がされました．

山本教授を中心に準備委員の先生方の熱意をかけた昭和大学オリジナルのOSCEが3月1～5日に行われます．

昇任・採用

広報委員長　井上　富雄

勝田秀行：助教（顎口腔疾患制御外科学）

四大学交流に参加して

歯学教育研修センター　長谷川　篤司

第7回四大学歯学部交流会が平成21年12月14日（月）に福岡歯科大学で開催されました．今回は「臨床実習の状況と充実に向けての取組みについて特に診療参加型実習と医学系実習について」というテーマに関する発表と討議を中心とした情報交換会となりました．

会議には福岡歯科大学から10名，岩手医科大学から3名，昭和大学から宮崎歯学部長，片岡歯科医学教育推進室長，長谷川歯学教育研修センター長の3名が参加し，さらに北海道医療大学から3名が TV 会議システムを活用して会議に参加しました．福岡歯科大学の田中理事長，北村学長の挨拶に続き，福岡歯科大学小島先生から病院システムを活用した病院実習体制の構築状況と，学務課を活用した学生の技能到達度管理体制の紹介があり，さらに臨床研修への円滑な移行を視野に入れた医科実習の導入状況についての説明がなされました．続いて北海道医療大学斎藤先生からマルチメディアを活用したシミュレーション実習の充実状況と地域密着型医療コミュニケーション教育確立の進捗状況などが紹介されました．

3番手として本学長谷川が，コンピテンシーの確立，臨床実習枠組みの見直し，水準表の整備など臨床実習を診療参加型にするための取り組みと，低学年からのコミュニケーション教育や技能実習教育などのスパイラル教育構造を紹介し，さらに，本年度から臨床実習終了時 OSCE を実施することを発表しました．

最後に岩手医科大学中居先生から歯科内科学のあり方と医療系実習充実が紹介されました．現状では，福岡歯科大学，岩手医科大学で医学系教育や実習への積極的な試みが，北海道医療大学，昭和大学で診療参加型実習への積極的な工夫や試みが行われていると感じられました．

行事予定

広報委員長　井上　富雄

2月3日（水）：共用試験 CBT
2月6日（土），7日（日）：第 103 回歯科医師国家試験
2月20日（土）：歯学研究科入学試験Ⅱ期
2月21日（日）：共用試験 OSCE
2月28日（日）：歯学部入学試験選抜Ⅱ期
3月1日（月）～5日（金）：臨床実習終了時 OSCE
3月3日（土）：共用試験CBT再追試験
3月11日（木）：共用試験OSCE再追試験
3月18日（木）：卒業式
3月25日（木）：大学院歯学研究科修了式
3月26日（金）：第103回歯科医師国家試験合格発表
4月12日（月）：入学式

3年生4学部連携PBLが実施されました

歯科医学教育推進室　片岡　竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人を育てる」をキーワードとして，医療系総合大学の特色と全寮制という環境を活かして，4学部連携教育を推進しています．この教育の卒前のゴールは，5年生で実施する昭和大学附属8病院における「4学部連携病棟実習」です．学部間連携教育運営委員会では，実際の入院患者さんの医科，歯科，薬剤，看護，理学，作業にわたる医療情報を4学部学生が共有した上で，患者さんにとって望ましい医療とは何かをディスカッションし，現場の医療スタッフに提案をする実習の準備をしています．5年生で行う「4学部連携病棟実習」のシミュレーションとして，4年生では，模擬カルテなどをシナリオとして学生に提示し，4学部学生は共有した情報を基に，患者さんの問題点を明らかにし，対応策をグループでディスカッションするPBLを現在準備しています．

本題の「3年生4学部連携PBL」は歯学部PBLと同様にペーパーペーシェント（シナリオ）を基にしたPBLですが，4学部の学生がそれぞれの専門分野の知識を基に，ディスカッションを行い，グループとして患者さんに対する最良の治療・ケアについて考えます．昨年からはじまり今年度が2年目ですが，交通機関のトラブルにもかかわらず，運営は安定してきました．学生も1年次に学部連携PBLを経験しているため，PBLの進行は昨年度よりスムーズでした．皆2年間の成長をお互いに驚き，尊敬しあう場面が多くみられました．また患者さんを多面的にみることにより，よりよい医療が提供できることに気づいた学生が多くみられました．さらに，各グループで各学部の代表として，責任を持って発言することの重要性に気づき，医療人としての自覚が生まれたという声も多く聞かれました．このような教育を受けた学生が，それぞれの医療現場で本当のチーム医療を始める日は遠くないと思います．

診療統計（平成21年12月分）

医事課長　久米　徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,855	776．3	742．4	784．9
入院患者	479	15．5	14．9	14．5

4学部連携 PBL を体験して

D3　66番　中里　友香理

昨年12月，私達3年生は医学，歯学，薬学，保健医療学部による4学部連携PBLを行いました．リウマチとパーキンソン病が中心テーマで2つのシナリオのどちらかに各グループが取り組み，患者さんの人生をより豊かにするための具体的な治療方針を立てグループごとに発表しました．4学部連携PBLは1年生以来で，初めはどうなることかと緊張していましたが，討論が始まると，医学部生は症例に対する知識と治療法，歯学部生は主症状に合併して現れる口腔内症状や口腔リハビリ，薬学部生は持参薬と治療薬がもたらす体への影響，保健医療学部生はADL（日常生活動作）向上のためのリハビリや介護についてとそれぞれが専門知識を生かして発言し，白熱したものとなりました．ディスカッションを通じ強く感じたことは，自分がいかに他学部の領域について無知であるかということでした．また歯学部のみで行うPBLと違って，他学部の学生に口腔領域に関する専門用語は通じないので，わかりやすい言葉に置き換えて説明する必要がありました．このことで臨床の場において患者さんに説明する際の感覚を味わうことができ，大変有意義でした．発表会では，治療方法のみに焦点を絞っている班もあれば，それだけでなく患者さんの家庭環境なども含め治療を提案している班もありました．また，同じ症状に対してもたくさんの治療方針があがり勉強になりました．このように様々な分野から多角的に，必要に応じて各分野が協力し合い治療を進めることが，患者さんの本当の意味でのQOL向上に繋がる第一歩であると感じました．

受賞

広報委員長　井上　富雄

平成21年10月29～31日に浜松で開催された「第29回日本臨床麻酔学会」におきまして，遠藤淳子（歯科麻酔科　助教）が「ベストプレゼンテーション賞」を受賞されました．演題名：「麻酔導入時に併用する一定血中濃度のレミフェンタニルおよびフェンタニルが循環動態に及ぼす影響の比較」．

平成21年12月5日に開催された「第46回日本口腔組織培養学会」におきまして，鈴木大（口腔生化学教室　大学院4年生）が「学術奨励賞」を受賞されました．演題名：「四肢・骨格形成における低分子量Gタンパク質 Rac1 の役割」．

市民公開セミナー：聴覚障害者のための医療講演会

高齢者歯科学教室　佐藤　裕二

12月5日(土)に上條講堂で「歯の健康と生活習慣病の食事」のセミナーが開催されました．

第一部では大学病院薬剤部の早瀬久美さんが「聴覚障害者外来」の説明をし，第二部で私が「失われた歯と健康を取り戻す」と題して話しました．その後，歯科病院歯科衛生士の柴田由美さんが「健口体操」の実演を行い，第三部で烏山病院栄養科の鴨志田恭子さんが，「生活習慣病についての食事の取り方」の講演がありました．

講演には「情報保証」がつき，内容は手話通訳，要約筆記（講述内容をスクリーンに写す），磁気ループ（補聴器に直接音声を送り込む機材）です．普段は早口の私ですが，この日ばかりはゆっくりと話しました．笑いを取る場面でも，ワンテンポ遅れるので，「すべったかな？」と心配しましたが，

100名弱の聴衆は，とても熱心に聴講してくださいました．終了後の質問は，質問者がステージに上がり，手話で質問され，それを音声に翻訳する方法でした．私も非常に貴重な経験をさせていただき，少しですが，聴覚障害者に対する理解が深まりました．近々，早瀬さんを招いて，歯科病院で手話の講習会が開催予定です．

昭和大学がこのような取り組みをしていて，「聴覚障害者外来」があることも知りませんでした．この機会に皆さんに紹介し，昭和大学が一層障害者に優しい大学になることを祈念しています．

昭和歯学会が開催されました

昭和歯学会常任理事　中村　雅典

12月5日（土）に第29回昭和歯学会例会が開催されました．今回は特別講演1題，研究紹介講演1題と一般講演30題と例年よりも多い演題数となりました．特別講演は東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻の小長谷明彦教授による「生命医学情報の現状と臨床応用の課題」というタイトルで，臨床・基礎データを基に生命現象を正確にシミュレーションするための先端の研究成果についてご講演をいただきました．先生の研究方法を用いて歯周病の全身疾患発症への関与の可能性も示していただき，参加者に口腔から全身へという歯科医学の可能性に対する興味も引き出していただきました．

研究紹介講演は，本学歯科保存学・美容歯科教授の真鍋厚史先生が「前歯部歯間離開への審美的対処法」と題してご講演いただきました．ご講演タイトルの内容だけでなく，美容歯科治療を行う際のインフォームドコンセント等の重要性についてもお話しいただきました．昨年度より学位申請の研究内容の学内への公示が原則化したことに伴い，一般講演では多くの大学院生や研究生による発表があり，各演題では活発な質疑応答がなされました．

専門医・認定医取得

広報委員長　井上　富雄

●日本歯科審美学会　認定士
桜井みゆき(美容歯科　歯科衛生士)
酒井麻里（美容歯科　歯科衛生士）

●日本矯正歯科学会　認定医
中山真由子（歯科矯正学教室　助教（員外））
渡辺みゆき（歯科矯正学教室　助教（員外））

●日本癌認定医機構　暫定教育医
高橋浩二（口腔リハビリテーション科　教授）
宇山理紗（口腔リハビリテーション科　講師）
山崎善純（口腔リハビリテーション科　兼任講師）

●日本摂食・嚥下リハビリテーション学会　認定士
高橋浩二（口腔リハビリテーション科　教授）
宇山理紗（口腔リハビリテーション科　講師）
平野薫（口腔リハビリテーション科　講師）
綾野理加（口腔リハビリテーション科　助教）
濱田浩美（口腔リハビリテーション科　助教（員外））
丹生かず代（口腔リハビリテーション科　兼任講師）
齋藤真由（口腔リハビリテーション科　兼任講師）
中川令恵（口腔リハビリテーション科　兼任講師）
山下夕香里（口腔リハビリテーション科　兼担講師・言語聴覚士）
武井良子（口腔リハビリテーション科　言語聴覚士）

編集後記

口腔解剖学教室　野中　直子

2010年も1か月が過ぎました．現在，歯科界は激動の時代を迎えております．この波にのみ込まれずに，昭和大学歯学部の一員として心を新たに，教育・研究に日々励みたいと思います．

年の初めのお忙しい時期にもかかわらず，原稿執筆を快くお引き受けいただきました先生方に深く感謝いたします．

昭和大学そして皆様にとりまして，素晴らしい1年となりますようお祈り申し上げます．